

ずいき御輿

秋はいろいろな農作物の収穫の時期です。それに感謝して行われるのが秋の祭りです。北野天満宮の氏子地域である西之京では、野菜で飾り立てた御輿を作る「ずいきまつり（瑞饅祭）」があります。祭りは10月1日から5日にかけて催され、4日にはずいき御輿の巡行も行われます。

ずいきと呼ばれる里芋の茎で屋根を葺いた御輿を出すことから、祭りの呼び名が付いています。赤ずいきと青ずいきの2種類を使って2段に葺かれます。茄子、唐辛子などの乾燥させた野菜で作る隅瓔珞(すみようらく)、細かな模様で切った麦わらを貼り付けた鳥居、野菜や果実の種等で作った桂馬(けいま)・欄間(らんま)の人形など、御輿の全体が数多くの野菜で飾られています。

黒川翠山撮影写真には、ずいき御輿の写真が8枚あります。No.[722~724](#)は御旅所（中京区西ノ京）での写真、No.[719~721](#)、[725](#)、[726](#)は北野天満宮での写真です。御輿の正面、背面、側面など、全体が写されています。御輿の形や装飾は現在とあまり変わりません。No.719とNo.721は龍の同じ細工人形です。No.[720](#)はその後ろ面で、桂馬飾りが猪の人形です。干支の猪を題材にしたとすると1935年（昭和10）の作品となります。また、北野天満宮から御旅所に来る神幸祭行列も写されています（No.[1204~1219](#)）。



▲ [ずいき神輿](#) (黒川翠山撮影写真資料 No.720)

近藤豊撮影写真資料にも西之京御旅所での写真があります
(No.[5184~5199](#))。撮影年月日は1964年(昭和39)
10月2日です。黒川翠山のずいき御輿の写真と比べて
も、飾り付けなどにほとんど違いはなく、長年にわたって
伝統が固く守られていることがわかります。なお、北野天
満宮に出る野菜を飾る御輿と似たものは、北野社を移した
京田辺市の棚倉孫(たなくらひこ)神社などでも見ることが
できます。



▲ [ずいき神輿](#) (近藤豊撮影写真資料 No.5186)

参考文献 『[京都天神をまつる人びと ずいきみこしと西
之京](#)』 (西村豊・三枝暁子著 岩波書店 2014年)

(写真資料から 84 資料課 大塚活美)

(2017年9月22日公開)